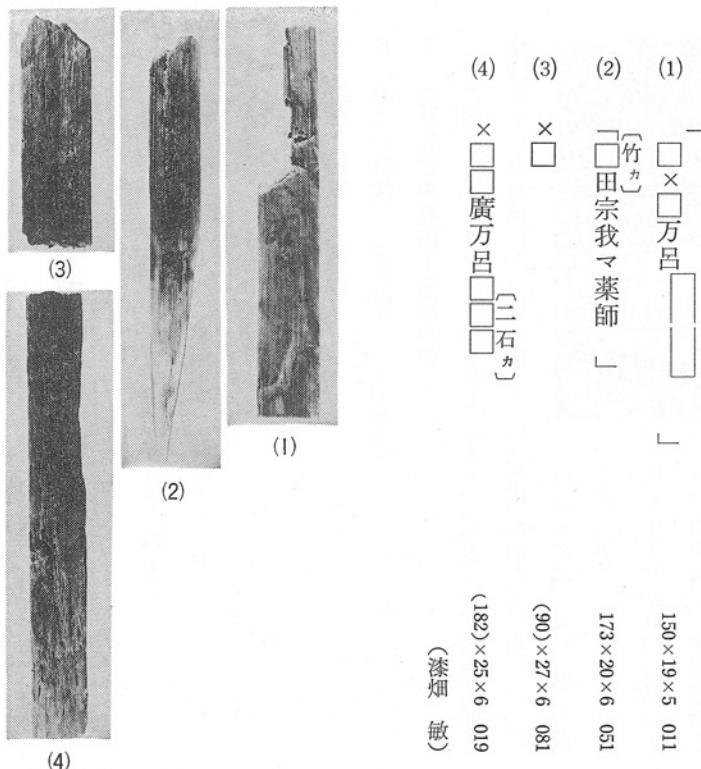


跡と有機的な関係も想定させる。

8 木簡の訛文・内容

出土点数が少ないことや(3)(4)は、同一個体と思われる)判読出来ない部分が多く、直接年紀の知れる部分もない点など、木簡からこの遺構や遺跡の性格を知り得るものではない。



卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 僥

一九八〇年出土の木簡

概要

平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮
跡 稗田遺跡——下ツ道—— 長岡京跡 大藏司遺跡 西沖遺跡
御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜
町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸
千軒町遺跡 野町地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東
辺部

一九七七年以前出土の木簡 (3)

平城宮跡(第二一次・第二二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

池田 温

中国における簡牘研究の位相

庸米付札について

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

狩野 久

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心にして——

原 秀三郎
志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 □四〇〇円